

「かかりつけ医」をめぐる議論

最近、かかりつけ医をめぐるさまざまな議論が飛び交っています。私自身は医師になってからの45年間、この主題に大いに関係する総合診療医療[≡]かかりつけ医に深く関わってきましたので、この問題について、できるだけエビデンス（この場合は歴史的事実）に基づいた情報を提供したいと思います。

皆さんが、熱が出るとか咳が出るとかした時、あるいは高血圧や糖尿病で内服剤で落ち着いているときにかかる医師（ほとんどの場合開業医）を一般的にかかりつけ医と呼んでいます。日本では、歴史的に医学部卒業後、大学病院や市中病院で専門医として勤務した後開業した医師がこのかかりつけ医を務めることがほとんどなのです。ですから日本のかかりつけ医は、どんな症状を訴えて受診するか分からない患者を診療するために、診療しながら自主学习していくしかないというのがついこの間までの現状でした。日本医師会（以下日医）もこの10年ほどで、このことに関して危機感を覚え、かかりつけ医の質を上げるための医師会主催の講習会を行なっています。

日医が主張するかかりつけ医は、あくまで患者が主体になって選ぶかかりつけ医なのです。これは私の推測ではなく、この議論が出るときに常に日医会長が発言していることです。ところが、日本以外の諸国（先進国、発展途上国を問わず）では、かかりつけ医を担っている医師は家庭医（[≡]総合診療医）としての卒後研修を数年間受けた医師であることがほぼ常識化しているのです。その方が、かかりつけ医の質が確保できるので、受診する患者の安全も担保できます。日医がかかりつけ医を患者が選ぶものとしている理由は、国がかかりつけ医を制度化すると患者が受診医師（医療機関）を選ぶ権利が制限される（受診のフリーアクセスの制限）が起こると主張しています。しかし、この主張は患者の利益にはつながらないことも多く、医療経済的に見ても不合理で、それが故に世界中を見渡しても、専門医としての訓練を受けた医師が中年に達して家庭医に変身する日本のような国はほとんどないのです。

こういう議論を進めていくと、医学部卒業後、家庭医あるいは総合診療医を一貫して目指し、診療、指導、学会活動をしてきた私が、日医の意見に反発しているだけだと思われる方が多いでしょう。確かにそれも一部当たっています。しかし、日医がこれまで常に制度化された家庭医（総合診療医）に反対していたかという点、それは全くそうではないのです。40代50代くらいの日医の幹部でも、その事実には無知な医師もいるので、この事実を皆さんに明記したいと思います。私が医学部を1977年に卒業してから3年目で米国ニューヨークで家庭医療学の3年間のレジデント（研修医）留学をおこないました。これは、厚生省（現在の厚労省）の臨床指導医留学制度による国費留学だったのです。この指導医

留学を厚生省に提案したのは、何と当時日医会長であった武見太郎氏だったのです。彼は、一部では開業医の利益団体としての日医のボスのように言われていましたが、実は国の医療のあるべき姿、医療経済、あるいはそのための世界の政策について実によく勉強をされており、武見氏の結論は「その国の医療の質は、専門医療ではなく開業医による一般医療（当時の言葉ではプライマリ・ケア）により決まる。」ということでした。そのために国は予算を組んで、その指導医から育てなければならないと厚生省に強く要求したのです。留学の一期生はわずか三人（運悪く制度が始まる直前に米国医師留学試験が突然難化したため）だったのですが、我々が帰国した直後に武見氏が亡くなられ、真の理由は不明ですが、武見氏の死後から現在に至るまで日医は国が関与する「家庭医制度」には断固反対の姿勢を貫いています。

冒頭にした「かかりつけ医に関する様々な議論」が沸騰するきっかけになったのが、2020年からのコロナ禍なのです。この時、日医が押すかかりつけ医である開業医が結果的には、貢献することが非常に少なかったのです。私も20年間の開業医の経験があるので、薄利多売で多くの患者を診察しないと医院の経営が成り立たない日本では、院長が感染してしまうとたちまち医院の経営が成り立たなくなるので、かかりつけ医がコロナ禍で、発熱患者を診察したくない気持ちが分からないわけではありません。しかし、この時、総合診療医としてのトレーニングを受けた若手医師たちが、病院でも開業医院でも、数少ない感染症専門医を助け活躍したのです。この事実を、いつもは医師を目の敵にしている日本メディアが目撃し、2021年後半頃から総合診療医に対する好意的な意見を掲載するようになっていきます。総合診療関係の最大の学会である日本プライマリ・ケア連合学会の代表も、総合診療医養成の時代の追い風が吹いているとの趣旨の発言をしており、私自身、頼もしく思っています。

May The FORCE be with family medicine in Japan!

（日本の家庭医療学に理力が共にあらんことを！）